

放送日： 平成 20 年 10 月 12 日

タイトル： 鼻づまりについて

担当者： 医師 花満 雅一

今日ははなづまりの話をしていきます。

耳鼻咽喉科では、はなづまりにつき耳門的な検査、治療を行っています。

はながつまった経験をお持ちの方は多数いらっしゃると思います。かぜをひいたときなどはながつまって苦しい思いをしたことはありませんか。通常かぜにとともにはなづまりは、かぜが治るとともによくなるのが普通ですが、長期にわたってはながつまる場合は注意が必要です。これからはなづまりにかかわるいくつかの病気についてお話しします。

もっとも多いのはスギ花粉症です。例年春先にスギ花粉の飛散とともに、症状がでてきます。鼻づまり以外に、くしゃみ、鼻汁、目のかゆみといった症状を伴います。花粉症対策としては、花粉が鼻に入るのを防ぐためにマスクをすとか、花粉飛散が多い時は外出をひかえるなどの方法があります。耳鼻咽喉科でも花粉症を治療していますが、内服治療、点鼻治療とともに、レーザー治療も行っています。鼻の粘膜を数回にわたってレーザーで焼くことで、症状を和らげます。レーザー治療のみで、花粉症が治る訳ではありませんが、はなづまりをやわらげるには効果があります。

次に副鼻腔炎という病気があります。副鼻腔というのは、鼻とつながっている、空気のみたまりのことをいいますが、そこに膿がたまる病気で、蓄膿と言われることもあります。花粉症とちがいで、どろっとした色の付いた鼻汁がでるのが特徴です。また、鼻茸といって、鼻にポリープ様のものができることがあります。耳鼻咽喉科では、内服治療とともに、手術治療もおこなっています。手術は、内視鏡下に行い切開を極力減らした方法でおこなっています。内服治療で治らない場合は、このような手術治療を行った方が、早く治癒することがあります。

あまり多くはないですが、鼻づまりが、癌の初発症状のこともあります。鼻にがんができると、それにより鼻が閉塞し、鼻づまりが生じます。特に片方の鼻ばかりつまって、時々鼻血もでる場合は注意が必要です。鼻に癌が生じると頬が腫れたり、眼が腫れたりすることがあります。

また、はなづまりは、夜間ねられなかったり、昼間も集中できなくなるなど、日常生活を苦しめる症状の一つです。長期間にわたる鼻づまりがあれば、はやめの耳鼻咽喉科受診をおすすめします。

当院でははなづまり患者様の診療の流れですが、まず受診された場合、鼻腔内の観察をおこないます。その後必要に応じて、血液検査でのアレルギーの検索、レントゲン、CT、MRI 検査を行います。それらの結果をふまえて、投薬、局所処置、手術などの治療を行います。長期にわたる鼻づまりがあるかたは、専門的な検査、治療のため耳鼻咽喉科受診をおすすめします。